

花壇用花きの高品質化に向けた LED 光源利用技術の開発

【研究概要】

都全体の花き出荷量の約 13%を占める花壇用苗物では、消費者は植え付け時の見た目の良さや管理作業の容易さ等の理由から徒長しない良く締まった、バランスの良い苗物を選択し、草姿が乱れやすい性質を問題としている。さらに、需要に合わせた生産をすると、植物本来の栽培時期・開花時期からはずれるため開花の遅れることから、現場からは草姿改善及び開花促進技術が求められている。そこで本課題では都内で生産量の多い苗物を中心に、基本的な特性である光周性や異なった光質に対する応答性を品目・品種ごとに把握するとともに、日長制御と人工光処理が草丈や開花などに及ぼす影響を明らかにし、草姿改善及び開花促進を目指した技術を開発することを目的に試験を実施した。その中で今年度は下記の成果が得られた。

- (1) 鉢上げ時から 1.5mの高さから波長の異なる単波長 LED を用いて終夜照明を行なっても、ダイアンサス、ビオラともに、草姿をコンパクトにする効果はない。開花については FR 光 (735nm) で約 1 週間早まった。